

は じ め に

近年、社会情勢は大きく変化し、将来を見通すことが難しい激動の時代を迎えています。少子高齢化や国際情勢の変化、社会や経済のグローバル化の進展、さらには情報化の急速な発展などにより、学校教育を取り巻く環境は大きく変化し、その課題もますます複雑化しています。

このように、様々な課題が連鎖する時代を生きる子供たちには、知識や技能の習得にとどまらず、自ら課題を見だし、他者と協働しながら解決に向かう力、そして新たな価値を創造していく力を身に付けていくことが求められています。

宮古教育事務所は昨年度も、「共につくる」をスローガンに掲げ、各学校の主体性を大切にした研修事業等に取り組み、学校自らが課題をとらえ、組織的に改善を進める「自走する学校づくり」を目指し、実践の深化を図ってきました。

次期学習指導要領改訂に向けた論点整理では、「主体的・対話的で深い学びの実装」「多様性の包摂」「実現可能性の確保」という三つの方向性が示されました。なかでも「多様性の包摂」は、これからの学校づくりの中核となる視点といえます。多様な背景や特性をもつ子供たちが、誰一人取り残されることなく、自分らしさを発揮しながら学び続けられる環境を整えていくことが大切となります。

その実現に向けて重要となるのが、探究的な学びの充実です。探究とは、子供たちが自ら問いを立て、情報を収集・整理し、思考を深め、表現し、さらに新たな問いへとつなげていく学びの循環です。答えのない問いに向き合い、試行錯誤を重ねながら粘り強く考え続ける経験は、思考力・判断力・表現力を育むとともに、各教科における知識・技能の定着にもつながっていきます。

そして、この探究の営みを根底で支えるものの一つが読書であると考えます。本を読むことは、単なる情報の取得にとどまらず、多様な視点や価値観に触れ、言葉を通して他者の思いや経験に出会い、自らの内面と静かに対話する営みでもあります。生成AIが瞬時に情報を提示する時代だからこそ、自らの頭で考え、言葉を吟味し、思索を深める読書の価値はこれまで以上に高まっています。

本年度、宮古教育事務所では読書活動の充実を重点施策の一つに位置付け、学校・家庭・地域が連携した読書活動の推進を図ってまいります。各学校におかれましても、子どもたちの読書活動の充実に向けた取り組みへのご協力をお願いいたします。

宮古教育事務所は、本年度から、スローガンを「共につくり 未来へつなぐ」として掲げ、これまでの取り組みを継承しながら、学校現場に寄り添い、共に歩む支援を進めてまいります。授業改善の推進、探究的な学びと読書活動の充実、教職員の資質・能力の向上、そして、持続可能な学校運営の確立を柱として、管内教育のさらなる充実を推進していきます。学校・家庭・地域が手を携え、子供たちの成長を支えていくこと。その積み重ねが、確かな未来を築く力となります。本研修事業計画が実践を力強く後押しし、子供たち一人一人が自らの可能性を信じて未来へ踏み出す一年となることを、心より願います。

令和8年4月 吉日
沖縄県教育庁宮古教育事務所
所 長 砂 川 義 治